郷の集い

発行　新郷校愛護会文芸部
編集責任者　小西　誠
印刷所　久野印刷所

1964 TOKYO オリンピック【特集】

"美の祭典"

オリンピックを「民族の力と美の祭典」と呼ぶけれど
私は、「人間美の祭典」と呼んだ方が良いと思う
民族の囲いを境に
技を競うけれど
互に励まし
闘魂を燃え　つきるまで闘う。
その姿は
何れも、人間としての極致の美をかなでる。
昔より語り伝えし言葉を異にし
顔色も肌色も各々に違うけれど
スポーツの世界では
混然一体となつた調べとなつて
人間極致の美しさとなる
十五才のあどけなさで、
三つの金メダルを獲得したスタウダー
体操で妖精の如く人目を引いたチャスラフスカ
日本のお家芸柔道を最後にノックアウトしたヘーシンク
バレーボールの東洋の魔女達よ
皆んな、立派で、素晴らしい
世界全人類の一人〳〵が
各々の持場で
この　感激を受継いで
平和に　たくましく　競うとき
全世界の平和と繁栄の朝が訪れることだろう。
嗚呼　オリンピックよ
永久に　幸あれ

北本堂　（M・K）

オリンピックを観て

河間　高戸静代

いかに同時性が強いと言われても、テレビはテレビで競技場の雰囲気は正確には感じ取れない。テレビを介して観戦するものだけの空気が出来てしまうようだ。

オリンピックは都合で全部を観ることは出来なかつたが、女子バレーの日本チームの最終戦はスコアそのものは一方的であつたが、試合内容は文字通り白熱したものがあつた。

日本は勿論、アジアでも最初のオリンピック大会を迎えて、関係各位の意気込みもさぞかし大きかつた事と思われる。その甲斐あつてか金メタルの数も米ソについで三番目であつた。メタルの数だけを争うのは誤りであろうが、精進の結果がメタルの数となつてあらわれるのならやむを得まい。

遠くオリンポスの神々に捧げられた競技の火が、今や幾千里を隔てたこの日本に燃えさかつたことを思うとき、人間の神秘の神への異敬はなくとも、世界の平和を願う心の益々深く強くなつていることを信ぜずにはいられない。聞けば選手村での各国選手の交歓が盛んだつたそうだが、これも国際親善の一助となるであろう。

日本の様に国境線というものを肌で感じていないところと、ヨーロッパ各国の様に陸の上の国境線では、あるときは厳しい分断線となり、時には無意味な土の上の目印ぐらいにしかならないこともあることを知つているものにとつて、この国境なきオリンピック選手村での二週間は貴重なものであつたろうと思う。

又オリンピックは一面から言えば国家が多くの外国人を招待する行事であるから、主人役の日本人は誠意を疑われてはならないのであるが、結果はよい様であつた。

ともあれ民族の祭典とも言うべきこの行事を楽しませてもらつたことの喜びを書き添えて私のオリンピック観戦を感じたまゝ綴ります。

東京オリンピックをかえりみて

中浜　小島クガ子

「光陰矢の如し」と言われていますが時の流れは本当に早いものです。「東京オリンピック」この言葉を聞いたのは、四年前の丁度暑い田草取りの最中でした。

そして新聞ラジオ等で早くもオリンピックの為の色々な計画が並べられた時、私は果して大規模なオリンピックを行う設備が四年間に出来上るか疑問に思つておりましたが、夜を日に継いでの関係者の努力は、ついに世界一を誇る幾つかの会場と共に立派に完成しました。

私は開会式のあの劇的な行進をテレビで見乍ら涙の出る程嬉しく思いました。ましてや工事に関係された方々も、嬉し涙で御覧になられた事と想います。日本人全体の努力と期待で迎え、そして実行したこの感激は将来誰の胸にも焼きついて離れる事は出来ないと思います。

そして華やかに繰り広げられた美しい力強い、そしてほんの少しも油断の許せぬ競技の数々、外国選手のすばらしさと共に特に、小野選手の力闘、東洋の魔女とうたわれた日紡貝塚の、あの死闘と勝利の瞬間の涙　そして、三宅選手のいかにも若いあの嬉しそうに上げた金メダルの微笑み、一々枚挙にたえないが、これが日本人全部の嬉しさの涙でなくて何で有りましょう。

今尚、子供の口ずさむ東京オリンピックの歌や、体操の物真似等を見て、より高く、より早く、より強く、立派な体、努力で積み上げる尊い精神を何時迄も胸に抱いてほしいと思います。

オリンピックと自己作り

角屋　小木　チ

アジヤに始めてオリンピック旗が飜つた東京大会、人工衛星によるテレビの世界中継という、史上最大の規模を誇つた東京大会は、海外世界の各国から最大級の讃辞を送られ、その施設運営では大成功をしたようです。私達は心から喜ばずにはいられません。開会式の光景は、まさに世界の祭典、平和そのものです。国旗と共に選手の入場行進は、力のエネルギ、とが一緒になつて、明日への希望に溢れた雄大な河の流れのようで、私は見ていて一ぱいで例えようのない喜びでした。選手の方々の四年間の努力が、力と技の全力を尽して競われました事、実に立派なものでした。選手の方が自分の記録を知つていて、それよりも更に、「より高く、より早く、より強く」なるために限りない努力を惜しまないその、スポーツ選手の心意気に敬服いたします。私は、毎日平凡に何もわからずにくらす自分が淋しくなります。

選手達の記録の更新も、総て、一人一人の「自己作り」があつてこそ生れるものだと思います。今の私達がどの程度、人間そのもの、即ち、自己自体を深く堀り下げて、その真諦をつかみ得たか？余りにも物欲や名誉欲を満足させる事のみによつて、人生の最上の価値と錯覚してはいないでしょうか。そして、その追求にあくせく働く人達が、あまりにも多くはないでしょうか。こんな社会情勢の中にいるといつの間にか、それだけに引ずられて行くことに、なかなか気がつかないことを恐れなければなりません。

メダルこそ手にする事が出来なかつた選手達でも、自分の持つ体力や能力以上に出しきつて戦つたその努力には、私は心から拍手を送りました。日本の選手の方々が、全力を尽して戦つて下さつた労苦に心から、「御苦労様」と申さずにはいられない気持で一ぱいです。これから後も更に選手の方々は自己の記録の向上に、限りない努力をなさることでしょう。私達も一日一日を惜しみなく送りたいものです。

オリンピックはスポーツを通して、国と国との友交を深め、オリンピックだけにしか見られない世界の平和と友情が、この地球上の総てのものに有つて慾しいと願わずにはいられません。

町民体育祭に思う

河間　高戸　薫

オリンピックの年にちなんで、或意味では類似した事柄なので一言のべたいと思います。

実は去る十一月一日に行なわれた町民体育祭の施行について、先ず第一に読者各位も同感かと思いますが、大会そのものの催されかたが、特に参加者の年々少くなつていく事等（今年は過去何回かで最低の参加と思いました。）が感じられたのではないでしょうか。

これらの原因を掘り下げてみますと特に私達農村部などでは、参加選手層の婦女子をふくめての出稼の慣例一般化したことが、先ず挙げられると思います。第二には体育祭そのものが一般に見て、飽きられて来ているのではないでしょうか。これは地域的に見て北潟等の大地域と、新郷、波松等の小地域では参加層の絶体数の不足、又内容的に見ても各競技各種目共、毎年同一選手の参加が多くなり新鮮味が失なわれているように見受けられます。これがため、例年のように大地域団体の上位入賞が、一般的に見て常識のように思われているのも原因の一つではないでしょうか。

以上感じたことを述べましたが当局に対しましての希望、意見として、オリンピックのように四年に一度とか或は隔年毎に意義新しく町民全員が卒先して参加出来るように、リクレーション的なスポーツ祭典にしては如何かと思います。又北潟のような大地域等は、東西にわけて、私達新郷地域のような態勢にして参加すれば以上述べた点も改善され、よい意味での面白い競り合の均等した祭典が出来るのではないでしょうか。今後において過去のような形で町民体育祭を行うなうとなれば、益々参加者の減少等でさびれてくる事が必至だと思われてなりません。これらを是正する意味でも読者各位の、私の意見に対して御批判があれば幸いかと思つて居ります。尚本年度新郷地区参加選手並に応援者各位の絶大なる御支援に対しましては深く深く感謝の意を表したいと思います。

◇不良化防止に　娯楽やスポーツを◇

世紀の華とも称すべき東京オリンピックは静かに夢のようにその幕を閉じた。貧るようにテレビの前で選手達の一挙一動を、じつと見つめ、夢中で声援を送つたあの姿には、たとえようのない気高さと純潔さを覚えたものであつた。

今日、青少年の非行問題が叫ばれているが、あの姿こそ若者達の夢と希望が、充分に叶えられた喜びの姿であつたように思う。

十月は、県で一斉に不良化防止月間と定められましたので、本校でも次の様に行事をしてまいりました。

○十月一日（木）
1.職員全員と不良化防止強化月間の主旨の話し合い。
2.芦原部模型飛行機競技会に五、六年児童全員参加。

○十月七日（水）
町主催の「交通安全ポスター募集」に応募。

○十月九日（金）
芦原町小中学校綜合体育会に四年以上参加。

○十月十日（土）
オリンピック東京大会の開会に当つて、児童との話し合い、及テレビの見方と選手達への声援について指導。

○十月十三日（火）
全校児童の秋季遠足を実施。

○十月二十六日（月）
四年以上全児童の運動能力の測定会実施。

○十月二十六日（月）より十月三十一日（土）まで
校内読書週間の設定。

○十月二十七日（火）
母親学級の開催（家庭教育についての講話と、生活指導についての懇談）

以上、積極的な娯楽や、スポーツを与えて、伸び伸びと行動させる事が、禁止的行動以前の問題であると思う。

〈東〉

郷の集い

発行所　新郷小学校
編集兼印刷人　西野久誠
印刷所　芸文社
部数　1,000

1964 TOKYO

オリンピック【特集】

〝美の祭典〟

オリンピックを「民族の力と美の祭典」と呼ぶけれど

私は、「人間美の祭典」と呼んだ方が良いと思う民族の囲いを境に
技を競うけれど
互に励まし
闘魂を燃え　つきるまで
闘う。
その姿は
何れも、人間としての極致の美をかなでる。

昔より語り伝えし言葉を
異にし
顔色も肌色も各々に違うけれど
スポーツの世界では
混然一体となった調べとなって
人間極致の美しさとなる
十五才のあどけなさで、
三つの金メダルを獲得したスタウダー
体操で妖精の如く人目を引いたチャスラフスカ
日本のお家芸柔道を最後にノックアウトしたヘーシング
バレーボールの東洋の魔女達よ
皆んな、立派で、素晴らしい

世界全人類の一人〳〵が
各々の持場で
この　感激を受継いで
平和に　たくましく　競うとき
全世界の平和と繁栄の朝が訪れることだろう。

鳴呼　オリンピックよ
永久に　幸あれ

北本堂
(M・K)

オリンピックを観て

河間　高戸静代

いかに同時性が強いと言われても、テレビはテレビで競技場の雰囲気は正確には感じ取れない。テレビを介して観戦するものだけの空気が出来てしまうようだ。

オリンピックは都合で全部を観ることは出来なかったが、女子バレーの日本チームの最終戦はスコアそのものは一方的であったが、試合内容は文字通り白熱したものがあった。

日本は勿論、アジアでも最初のオリンピック大会を迎えて、関係各位の意気込みもさぞかし大きかった事と思われる。その甲斐あってか金メダルの数も米ソについで三番目であった。メダルの数だけを争うのは誤りであろうが、精進の結果がメダルの数となってあらわれるのならやむを得まい。

遠くオリンポスの神々に捧げられた競技の火が、今や幾千里を隔てたこの日本に燃えさかったことを思うとき、人間の神秘の神への異敬はなくとも、世界の平和を願う心の益々深く強くなっていることを信ぜずにはいられない。聞けば選手村での各国選手の交歓が盛んだったそうだが、これも国際親善の一助となるであろう。

日本の様に国境線というものを肌で感じていないところと、ヨーロッパ各国の様に陸の上の国境線では、あるときは厳しい分断線となり、時には無意味な土の上の目印ぐらいにしかならないこともあることを知っているものにとって、この国境なきオリンピック選手村での二週間は貴重なものであったろうと思う。

又オリンピックは一面から言えば国家が多くの外国人を招待する行事であるから、主人役の日本人は誠意を疑われてはならないのであるが、結果はよい様であった。

ともあれ民族の祭典とも言うべきこの行事を楽しませてもらったことの喜びを書き添えて私のオリンピック観戦を感じたるまゝ終ります。

東京オリンピックをかえりみて

中浜　小島クガ子

「光陰矢の如し」と言われていますが時の流れは本当に早いものです。「東京オリンピック」この言葉を聞いたのは、四年前の丁度暑い田草取りの最中でした。そして新聞ラジオ等で早くもオリンピックの為の色々な計画が並べられた時、私は果して大規模なオリンピックを行う設備が四年間に出来上るか疑問に思ってお りましたが、夜を日に継いでの関係者の努力は、ついに世界一を誇る幾つかの会場と共に立派に完成しました。

私は開会式のあの劇的な行進をテレビで見乍ら涙の出る程嬉しく思いました。国旗と共に選手の入場行進は、力のエネルギー、平和のエネルギー、とが一緒になって、明日への希望に溢れた雄大な河の流れのようで、私は見ていて例えようのない喜びで一ぱいでした。選手の方々の四年間の努力が、力と技の全力を尽して競われました事、実に立派なものでした。選手の方が自分の記録を知っていて、それよりも更に、「より高く、より早く、より強く」なるために限りない努力を惜しまないその、スポーツ選手の心意気に敬服いたします。私は、毎日平凡にもわからずにくらす自分が淋しくなります。

選手達の記録の更新も、総て、一人一人の「自己作り」があつてこそ生れるものだと思います。今の私達がどの程度、人間そのもの、即ち、自己自体を深く掘り下げて、その真諦をつかみ得たか？余りにも物欲や名誉欲を満足させる事のみによって、人生の最上の価値と錯覚してはいないでしょうか。そして、その追求にあくせく働く人達が、あまりにも多くはないでしょうか。こんな社会情勢の中にいるといつの間にか、それだけに引ずられて行くことに、なかなか気がつかないことを恐れなければなりません。

メダルこそ手にする事が出来なかつた選手達でも、自分の持つ体力や能力以上に出しきつて戦つたその努力には、私は心から拍手を送りました。日本の選手の方々が、全力を尽して戦つて下さつた労苦に心から、「御苦労様」と申さずには、いられない気持で一ぱいです。これから後も更に選手の方々は自己の記録の向上に、限りない努力をなされることでしょう。私達も一日一日を惜しみなく送りたいものです。

オリンピックはスポーツを通して、国と国との友交を深め、オリンピックだけにしか見られない世界の平和と友情が、この地球上の総てのものに有つて慾しいと願わずにはいられません。

町民体育祭に思う

河間　高戸　薫

オリンピックの年にちなんで、或意味では類似した事柄なので一言のべたいと思います。

実は去る十一月一日に行なわれた町民体育祭の施行について、先ず第一に読者各位も同感かと思いますが、大会そのものの催されかた、特に参加者の年々少くなつていく事等（今年は過去何回かで最低の参加と思いました。）が感じられたのではないでしょうか。

これらの原因を堀り下げてみますと特に私達農村部北潟のような大地域等は、東西にわけて、私達新郷地域のような態勢にして参加例一般化したことが、先ず挙げられると思います。第二には体育祭そのものが一般に見て、飽きられて来ているのではないでしょうか。これは地域的に見て北潟等の大地域と、新郷、波松等の小地域では参加層の絶体数の不足、又内容的に見ても各競技各種目共、毎年同一選手の参加が多くなり新鮮味が失なわれているように見受けられます。これがため、例年のように大地域団体の上位入賞が、一般的に見て常識のように思われているのも原因の一つではないでしょうか。

以上感じたことを述べましたが当局に対しましての希望、意見として、オリンピックのように四年に一度とか或は隔年毎に意義新しく町民全員が卒先して参加出来るように、リクレーション的なスポーツ祭典にしては如何かと思います。又北潟のような大地域等は、女子をふくめての出稼の慣例一般化したことが、先ず挙げられると思います。第二には体育祭そのものが一般に見て、飽きられて来ているのではないでしょうか。これは地域的に見て北潟等の大地域と、新郷、波松等の小地域では参加層の絶体数の不足、又内容的に見ても各競技各種目共、毎年同一選手の参加が多くなり新鮮味が失なわれているように見受けられます。これに対して御批判があれば幸いかと思つて居ります。尚本年度新郷地区参加選手並に応援者各位の絶大なる御支援に対しましては深く深く感謝の意を表したいと思います。

開会に当つて、児童との話し合い、及テレビの見方と選手達への声援について指導。

○十月十三日（火）
全校児童の秋季遠足を実施。

○十月二十六日（月）
四年以上全児童の運動能力の測定会実施。

○十月二十六日（月）より十月三十一日（土）まで校内読書週間の設定。

○十月二十七日（火）
母親学級の開催（家庭教育についての講話と、生活指導についての懇談）以上、積極的な娯楽や、スポーツを与えて、伸び伸びと行動させる事が、禁止的行動以前の問題であると思う。

〈東〉

☒不良化防止に　娯楽やスポーツを☒

世紀の華とも称すべき東京オリンピックは静かに夢のようにその幕を閉じた。貧るようにテレビの前で選手達の一挙一動を、じつと見つめ、夢中で声援を送つたあの姿には、たとえようのない気高さと純潔さを覚えたものであつた。

今日、青少年の非行問題が叫ばれているが、あの姿こそ若者達の夢と希望が、充分に叶えられた喜びの姿であつたように思う。

十月は、県で一斉に不良化防止月間と定められましたので、本校でも次の様に行事をしてまいりました。

○十月一日（木）
1.職員全員と不良化防止強化月間の主旨の話し合い。
2.芦原部模型飛行機競技会に五、六年児童全員参加。

○十月七日（水）
町主催の「交通安全ポスター募集」に応募。

○十月九日（金）
芦原町小中学校綜合体育会に四年以上参加。

○十月十日（土）
オリンピック東京大会の

テレビで見たオリンピック東京大会

校長　伊藤　剛

○開会式と閉会式

先づ選手団の入場を見て世界中に国が多いことにおどろいた。

緊張と気楽さ
明朗と静寂さ
期待と惜別
相反した感激は永久に残る

誰れが考えたか、まさに演出効果百%だつた。

○スポーツ種目への開眼

競技種目の多いのは今更ながら、体操、六人制バレー、重量あげ、レスリング、フエンシング、水泳、ホツケー等の競技方法がわかつたのでこれから新聞を見ても楽しみだ。

○オリンピックと国際親善

閉会式を見ていると日本の選手団の旗手福井選手を肩車にのせて各国の選手が入りまじつて行進している姿や、ニュージランドの選手がロイヤルボツクスの前までやつて来て、おどけたかつこうで馴れない最敬礼を何度もやつておるのを見ていると涙がにじむ程心温まる思いがして、国境を超えたオリンピック開催の意義が、痛感された。

○勝つことの偉大さ。

円谷選手の死斗、三宅選手やレスリング選手の根性、体操やバレー選手の神技をまのあたり見て勝つことの困難さと偉大さに腹の底から「えらいなあー」と尊敬する気持で一ぱいだ。同時に、これからの学校教育に何か欠けていた所に太い一本の筋金を入れることが必要でなかろうか。

○児童の感想文より何が頭に残つたか。まとめて見ると左表の通り。

種目＼学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
体操	5	3	11	1	1	4	25
女子バレー	0	7	3	6	4	5	25
閉会式	2	4	1	1	2	8	15
重量あげ	1	4	3	1	4	1	12
マラソン	1	0	2	1	1	1	9
開会式	0	0	4	0	0	2	8
水泳	3	1	2	0	0	1	7
馬術	0	1	0	0	0	0	1
柔道	0	0	0	0	0	1	1
ホツケー	0	0	0	0	0	1	1
メダル	0	0	1	0	0	0	1
全上の数種目について	1	3	0	4	10	4	22
計	13	23	27	14	22	28	127

個人的には日本の選手団長だつた小野選手が、毎日何本もの注射をしながら最後まで頑張つたその責任感に敬服した児童が多かつた。

○最後に　この又と得がたい児童や皆様の感激が四年後の福井国体に充分に発揮されんことを祈つて筆を擱きます。

子どもが見たオリンピック

すいえい

一年　おじまあきのり

ぼくは　テレビで　すいえいを　みました。

びすとるが　なると　日本のせんしゆは　がんばつておよぎました。けれども　アメリカのせんしゆが　一とうに　なりました。日本は二とうに　なりました。すこしたつたら、よそのくにの　せんしゆが　日本のせんしゆに　おいついて　日本は　三とうに　なりました。ぼくは　アメリカのせんしゆは　すいえいに　つよいなあと　おもいました。

すこしたつたら　また　びすとるが　なりました。せんしゆたちは　いつしようけんめいに　およぎました。やつぱり　アメリカがかちました。みていた　おじさんが「アメリカは　これで　きんめだる　一六こめだ。」といいました。ぼくは　アメリカのせんしゆを　かんしんしました。また　さつきのおじさんが「ほんとうにアメリカのせんしゆはみごとだ。」といいました。ぼくも　そうおもいました。

すこしたつて　ひようしよしきになりました。

アメリカは　一とう　日本は　とうとう　三とうで　よそのくにの人が　二とうときまりました。

オリンピックのてれびをみたこと

二年　小島道隆

じゆうりようあげ

じゆうりようあげをみていると、大きくてうでのしつかりしている人がでてきます。ぼくは（だいたいあげられるやろ。）とおもつてみていたら、あげられませんでした。どの国もなかなかあがらないのでだいぶんおもいのだろうと思いました。けれども日本のみやけせんしゆはどうどうあげて、金メダルをはじめてとつたときはうれしかつた。

水えい

水えいでアメリカはつよいなとおもいました。なんでつて、ドン・ショランターやロイ・サーリーがいるので金メダルを十六こもとつたことです。日本も、もつとがんばつてほしいとおもいました。

マラソン　白崎敬二

エチオピアのアベベせんしゆが一とうになつて、きついなとおもいました。日本のつぶらやせんしゆが、二とうになるかとおもつていたら、イギリスにおいこされてしまいました。三とうでゴールインにはいつたらたおれてしまつたので、かわいそうや、とおもいました。

水えい　山口敬一

水えいでアメリカは、一六この金メダルをとりましたが日本は、銅メダル一こでした。でも銅メダル一こでもいつしようけんめいがんばつてとつたので、ぼくはいいとおもいました。

へい会式

三年　中野るり子

夕方になつて、テレビを見たら、へい会式が始まつていました。

はじめにどこかの国の名前を書いた板を持つて出て来ました。つぎにはたが出て来ました。そんなのが九十四回あつて、九十四回めに出てきたのは日本でした。そのあとに外国のせんしゆたちが、きちんとならばずにばらばらになつて出て来ました。そうして、日本のはたを持つている人をかたにのせて、ワーツと行きました。わたしはそこがたいへんおもしろいと思いました。すこしあとにランニングを着て半ズボンをはいて走つて行く人がありました。

外国のせんしゆたちが行つてから、日本のせんしゆたちがきれいにならんで出てきました。

みんなきれいにならんだ時、オリンピックのはたがおろされました。せい火もきえました。へい会しきがおわつて中にはいる時、どこかの外国の人が六人ほどかたまつて、走つて行つて天のうへいかの前に行つて何回もおじぎをしてはいつて行きました。

オリンピックの感想

四年　山口美枝子

十月十日から二週間にわたつて開かれたオリンピックも終つたけれど、いまだに心に残つてわすれられません。これは一生の思い出の一つになると思います。

私は、いろいろな競技の中で、重量上げと、女子バレーボールの試合が、はつきりと思い出されます。重量上げでは三宅選手が金メダルを取りました。その前の外人選手が、三宅選手より重そうな重量を上げたので、三宅選手は二位になつたと思つていました。けれど三人の選手が台にならんだ時、三宅選手は真中で一位の所にたつていました。どうしてだろうと思つていましたが、それは、外人選手は三宅選手より軽いのを重そうに上げたのを、私はまちがえてしまつたのでしよう。そして三宅選手の首に金メダルがかけられました。その時、三宅選手はもちろんのこと私達もうれしかつた。三宅選手のお父さん、お母さんもどんなによろこんだことでしよう。

それから何日かたつて楽しみにして待つていた、女子バレーボールの決勝がありました。始まると、日紡貝塚のかんとくは、しんけんな顔をして、じつと見ています。第一回戦は日本が勝ちました。二回戦、三回戦とみんな日本が勝ちました。その時、日本の選手達はうれしさの余り、みんなうれし泣きに泣いていました。かんとくは、ほつとしたような顔になりました。私も、テレビを見ていて、ほつとしました。それは、二回戦、三回戦と終りに近ずいた時、ソレンの国がだんだん追いつめて来て、あと一点の差しかないようになつたからです。しばらくして、日本の女子バレーボールの人達は、大松かんとくを、どう上げしました。でも、どう上げをするのも女の人だから、あまり高く上げられません。きつとうれしさで、胸が一ぱいだつたでしよう。

毎日の練習は、ひる休んで、夜練習したそうです。その練習を四年間も続けてきて、そして金メダルを取りました。同じ四年間練習を続けてきたソレンも、四年後のオリンピックまでに、又、新しい練習をして頑張ればいいと思う。日本も今年のオリンピックのようにしつかり頑張つて、又、金メダルを取つてほしいものだと、私は思います。

女子バレーボール

五年　篠崎麻利子

今日は待ちに待つた女子バレーボールソ連との試合だ。母もおばあちやんもテレビを見に来た。勝つているのでうれしかつた。しばらくすると父が帰つて来た。一四点であと一点入れればいいのにその一点がなかなか入らない。ソビエトの選手はだんだんおいついて来たので私は心配になつて来た。父は、

「あの人達は貝塚へつとめていて晩の二時ぐらいまで練習するんにやさけの」

といつた。

そんなにおそくまで練習しているなんてえらいと思つた。きびしいかんとくにしこまれて

「やめてしまえ」

とひどいことをいわれてもがんばつて練習していた。私ならそんな事を言れたらすぐやめてしまのに、その人達はがんばつて又練習するなんてねばり強い人達だなあと感心した。

それから次第にソビエトが追いついて来て十四対十三になつた。あと一点で同点になる。私はソビエトが優勝してしまうみたいな気がした。その後日本は一点を入れた。私は日本が優勝したのかと思うとうれしかつた。でもそれはまちがいだつた。せつかく喜んだのにまちがいだつたのでがつかりした。

その後又一点入れた。今度はまちがいでなかつた。私は大変うれしかつた。表彰式には日本の選手の一人一人にメダルがあたえられた。その時選手の人達はどんなにうれしかつただろう。日本の選手はみんなないていた。私のうちのおばあちやんも

「よくやつたよくやつた」

といつてないていた。選手の父や母も見ていて心から喜んだことだろう。

バレーボール

六年　山口つる枝

日本チームの女子バレーボールはすごかつた。最後の最後までがんばりぬいて勝つたのだ。みごとに金メダルをとつた。りつぱだつた。バレー王国のチヤンピオンをみごとにやぶつたのだ。みんなみごとな技術をみせてくれた。

ああ日本チームは勝つたのだ！とただいうよりももつと深くさぐつてみると、苦しい訓練や練習などがつみ重なつて、やつとあれだけのことができたのだ。だからただみているだけでなくて、そのようなことを思いうかべなければならない。十月二十四日、この日のためにすべてをかけたのだ。オリンピツクに勝つことだけを目標に、もう練習をしたのだつた。鬼かんとくの大松かんとくも、鬼とか、へびとかいわれながらも、選手たちをはげましながら、十月二十四日の日をまつていたのだ。はげしいせり合いの中でついに勝つことができた。わたしも、ただ日本が勝つたという気持でいつぱいだつた。東洋のま女たちは見事に目的をはたしてくれた。前畑選手以来初めて、女子選手が日の丸をあげた。大松かんとくもそつとなみだをふいている。笠井も宮本も半田もみんな目が真つ赤、それだけに今までのくるしみなどがはつきりあらわれている。アナウサーは「みんな泣いています。あなたたちだけが泣くしかくがあるのです。大いに泣いて下さい。」といつていることばを聞いて、私も（そうだ、おおいに泣いて、つらかつたことを忘れて、これからもがんばつて下さい）と思つた。

編集後記

「郷の集い」を編集するに当つて、今回は特に「オリンピツク特集」として聊か考えて見ました。幸い皆様から多数の原稿の応募が有りました事を編集部として厚くお礼申し上げます。

しかし乍ら、さて、編集に取組んで見ますと、どうしても紙面の都合上、やむなく割愛させて戴く羽目にいたりました。切角の貴重な原稿をお寄せ下さつた方々に、失礼とは存じますが紙面を通じて深くお詫び申し上げます。